



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	大学教育におけるピアサポートシステムのあり方に関する研究 : 既往研究の整理と「北海道大学ピア・サポート」の実践から
Author(s)	岡本, 健
Description	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 第20回全国大会. 2011年8月6日. 日本大学生産工学部 実籾キャンパス.
Relation	日本ホスピタリティ・マネジメント学会 第20回全国大会 研究発表. 2011年8月6日. 日本大学生産工学部 実籾キャンパス.
Issue Date	2011-08-09
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/46920
Type	conference presentation
File Information	slide.pdf



大学教育におけるピアサポートシステムの のあり方に関する研究

— 既往研究の整理と
「北海道大学ピア・サポート」の実践から —

北海道大学大学院国際広報メディア・観光学院
観光創造専攻 博士後期課程 3年

岡本健

okamotot@cats.hokudai.ac.jp

- ①ピア・サポートの課題を、
先行事例、先行研究から抽出すること。
- ②抽出された課題を元に、
「北海道大学ピア・サポート」で
ピア・サポート活動を実践し、その結果から、
ピア・サポートのあり方を考察すること

学生が直面するコミュニケーションの問題

- ★大学生は様々な悩みを抱える。これは、学業等のパフォーマンスにも大きく関わってくる。
- ★相談相手として友人や先輩、知人を選ぶ割合が高い(北海道大学学務部 2006, 土屋 2010)
- ★学生のライフスタイルやコミュニケーションのあり方の変化により、悩みを解決する機能が発生しにくい状況にあることが推測できる。
- ★「コミュニケーション力」や「人間力」の涵養が重視され、「ノリとリズムのコミュニケーション」(土井 2008)中心。

ピア・サポートの役割

★ピア・サポートとは、「仲間による支援・援助活動」
(早坂 2010)

ピア・サポートの役割(早坂 2010)

- ①先輩や友人
- ②相談相手
- ③調停者
- ④教育者
- ⑤学習支援者

→さまざまな役割が期待されている。

大学におけるピア・サポートの展開

★大学教育においても1997年に広島大学に導入されて以来、広がっている。日本学生支援機構の調査では、「ピア・サポート等、学生同士で支援する制度の実施状況」について、大学全体で、2005年に12.9%であったのが、2008年には21.3%に増加している(山田 2010)

★「新生の適応支援、補完教育や初年次教育などでの学習支援(メンター)、オープンキャンパスやキャリアガイダンス等のイベント企画・運営、学修・進路・心理面・生活面など様々な問題に応答する「何でも相談室」における支援など様々」(山田 2010)

★まだ新しい試みであり、様々な課題もある。

- ①ピア・サポートの認知度の低さ(立地条件・広報)
- ②組織としての役割が不明確
- ③成員の維持(数、質、モチベーション)

ピア・サポートの課題間の関係性

・効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。
・**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

・**広報**によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。
・成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が口コミで伝わり、**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

・モチベーション
・人材

・**組織の位置付け**が明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。
・成員それぞれが、**モチベーション**を高く保ち、活動を活発に持続することにより、自身の持つ**組織の位置付け**も明確化される。

出典：岡本健(2011)「北海道大学ピア・サポートの誕生と展開 —つながり創出型ピア・サポートの提案」『北海道大学ピア・サポート活動報告書(平成22年度版)』pp.5-25.の図を加筆修正

北海道大学ピア・サポートの概要

☆ピア・サポーターが、学生からの相談を受け、その解決をはかる、あるいは、解決が可能な組織を紹介する『インターカー』としての役割を担う組織として発足。

☆現在のピア・サポーターの構成

- 学部生：6人（男性3人、女性4人）
- 大学院生：6人（男性3人、女性3人）

☆2009年11月に試行、
2010年4月より本格稼働

☆ボランティア相談室を
間借りしていたが、2010年11月より専用の部屋に移転



現在のピア・サポート室の様子

★北海道大学ピア・サポートは、
教務学生支援課管轄の学生相談室関連組織。

★教員4名によるサポート

2名(工学部・歯学部教授)は運営面。

2名(教育学部・准教授)は学生のサポート面。

★事務の協力体制

広報ビデオ 『苦楽戦隊ピア・レンジャー』



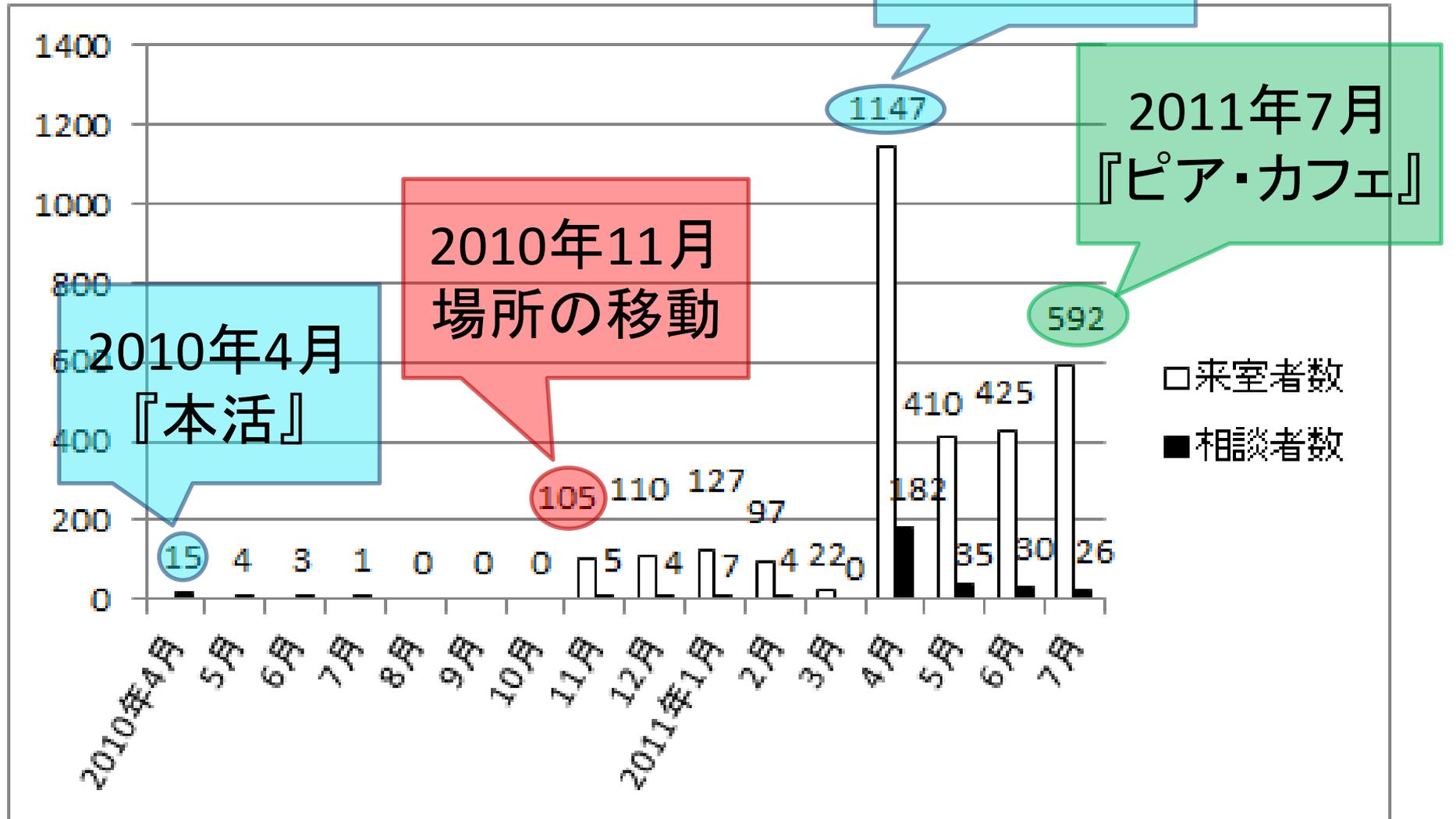
新入生向け相談活動



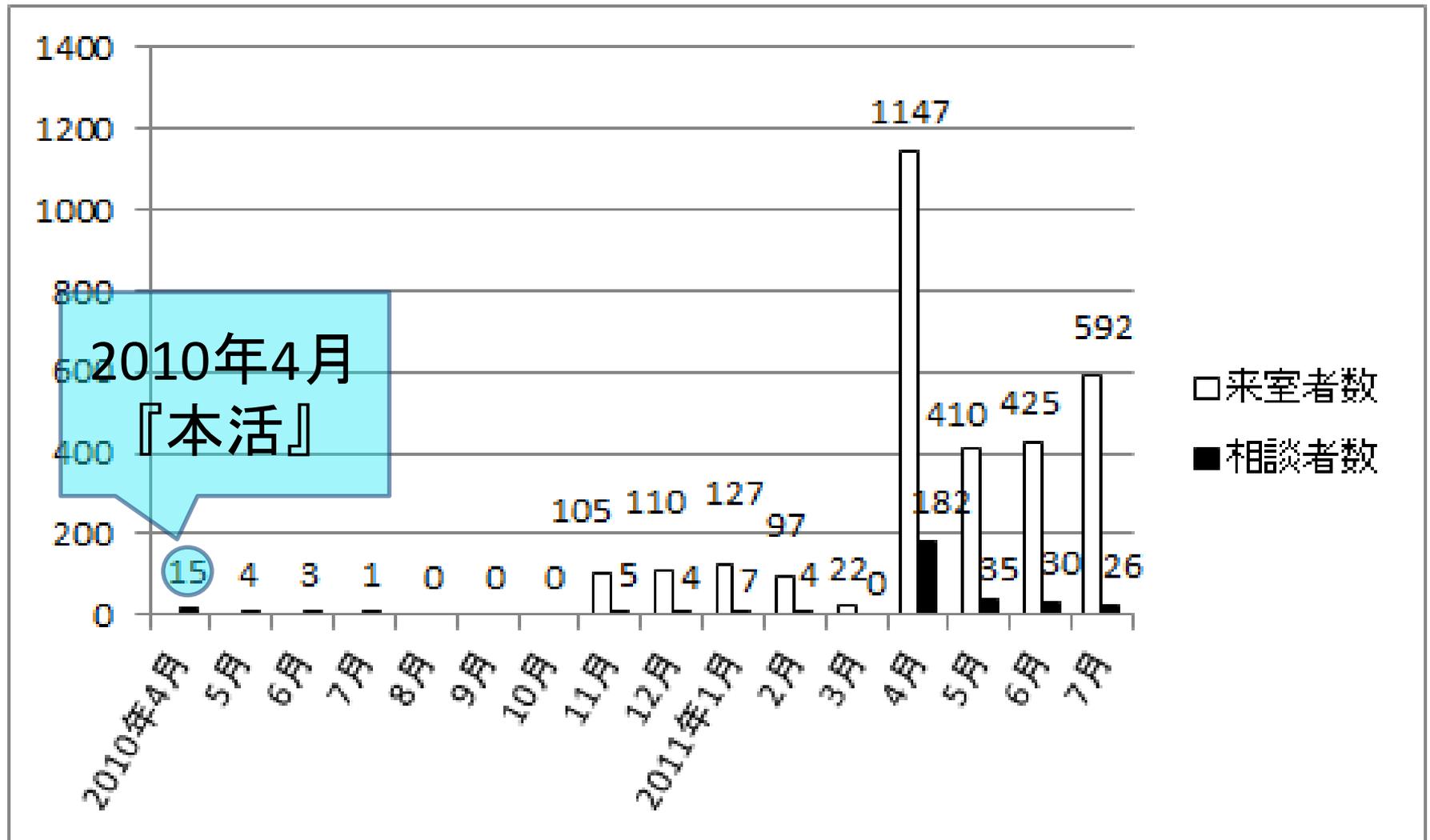
「ピア・カフェ」による オープンスペースの利活用促進



来室者数および相談者数の推移 2010年4月～2011年7月



来室者数および相談者数の推移 2010年4月～2011年7月



実施概要

- ♪いらなくなった本を回収し、これから使う学生に受け渡す
- ♪本の回収時には、文房具等と交換
- ♪本の頒布は無料、ただし、アンケート記入を必須

企画の背景

- ♪ピア・サポートの広報として(組織と場所の周知)
- ♪ピア・サポーターの実地訓練の場として
(サポーターのコミュニケーション能力の向上)
- ♪学生のサポートニーズに関するデータ収集として
(聞き取りおよびアンケート調査)

2010年4月「本活」の結果

結果

■ 2月、3月、4月に本を回収

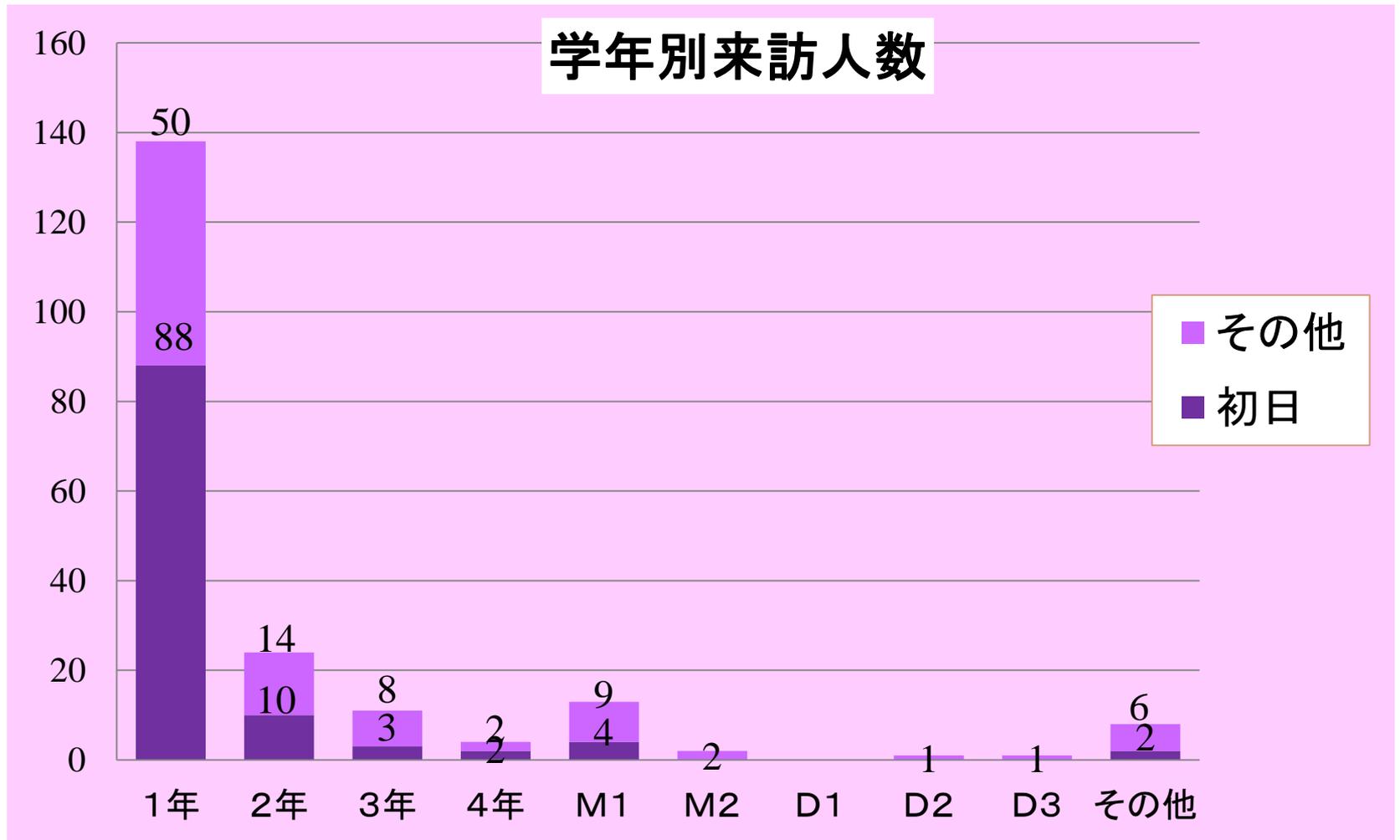
•→計492冊の書籍を回収

■ 4月中旬一週間が頒布期間

•→約400人が来訪。202人に414冊の書籍を頒布



2010年4月「本活」の結果



2010年4月「本活」の様子

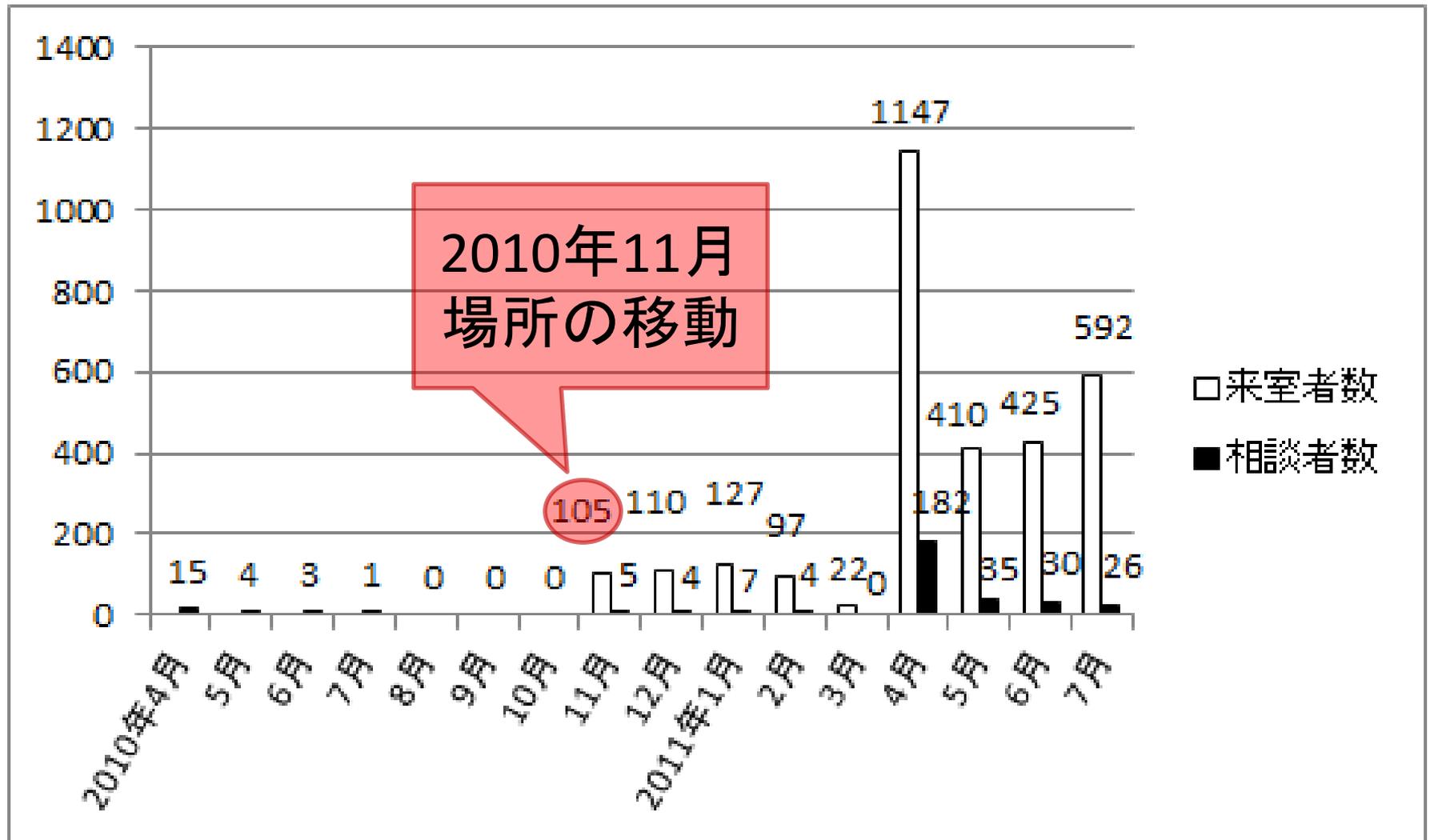


2010年4月「本活」の様子

ピア・サポートメンバーの声

- ・予想を上回る来場者数
- ・本を通してコミュニケーションが促進される
- ・立ち話であっても、軽い相談を解決することができた
- ・ピア・サポートの周知
- ・ピア・サポーターのモチベーションアップ

来室者数および相談者数の推移 2010年4月～2011年7月



2010年11月にピア・サポート室を移動



外
観

2010年11月にピア・サポート室を移動



オープンスペース全景

2010年11月にピア・サポート室を移動



個別相談室

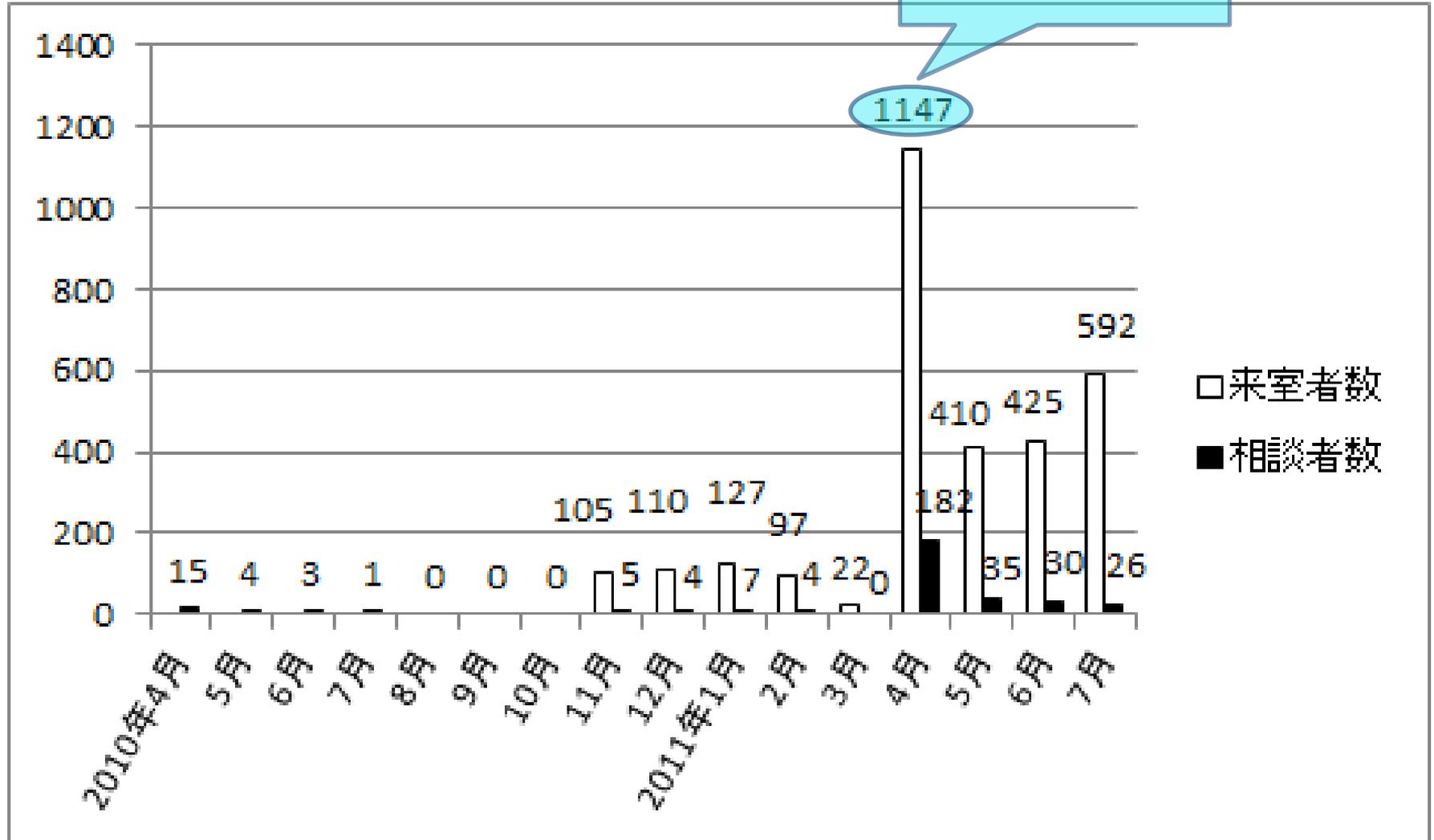
2010年11月にピア・サポート室を移動



ピア・サポート事務局

来室者数および相談者数の推移 2010年4月～2011年7月

2011年4月
『本活』



2011年4月度 来室者数および相談者数

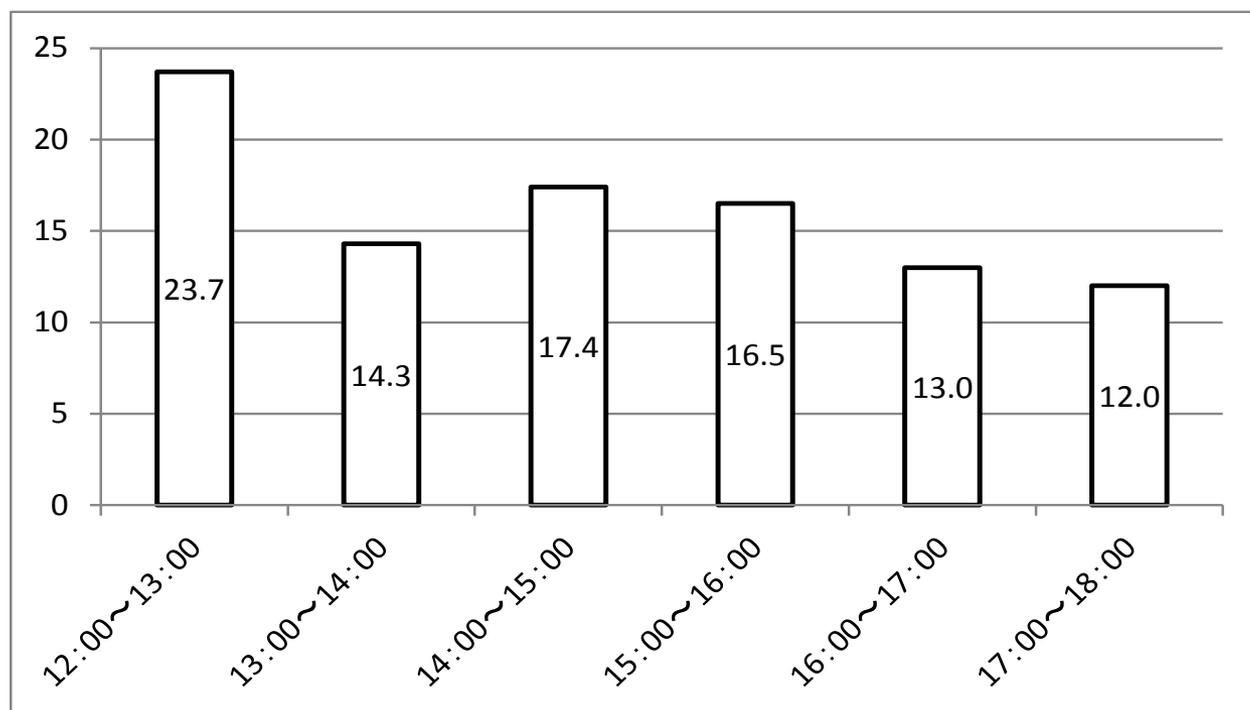
4月毎日開室期間の入室者数

年月日	曜日	時間帯						合計	平均
		12:00~13:00	13:00~14:00	14:00~15:00	15:00~16:00	16:00~17:00	17:00~18:00		
2011年4月11日	月	29	22	22	29	16	10	128	21.3
2011年4月12日	火	20	12	16	16	12	16	92	15.3
2011年4月13日	水	20	16	29	18	13	18	114	19.0
2011年4月14日	木	42	13	29	20	14	8	126	21.0
2011年4月15日	金	12	18	7	19	21	18	95	15.8
2011年4月18日	月	39	11	19	20	12	6	107	17.8
2011年4月19日	火	21	13	11	5	9	10	69	11.5
2011年4月20日	水	12	12	12	12	8	14	70	11.7
2011年4月21日	木	21	10	17	17	7	6	78	13.0
2011年4月22日	金	21	16	12	9	18	14	90	15.0
合計		237	143	174	165	130	120	969	161.5
平均		23.7	14.3	17.4	16.5	13	12		

2011年4月度 来室者数および相談者数

入室者数平均値の時間帯ごと比較

図を見ると、12時から13時の間の平均入室者数が23.7人と、他の時間帯に比べて多いことがわかります。12時は昼休みの時間に当たっており、授業と授業の合間に相談のために入室したり、昼食の場として利用したりすることが原因であると考えられます。

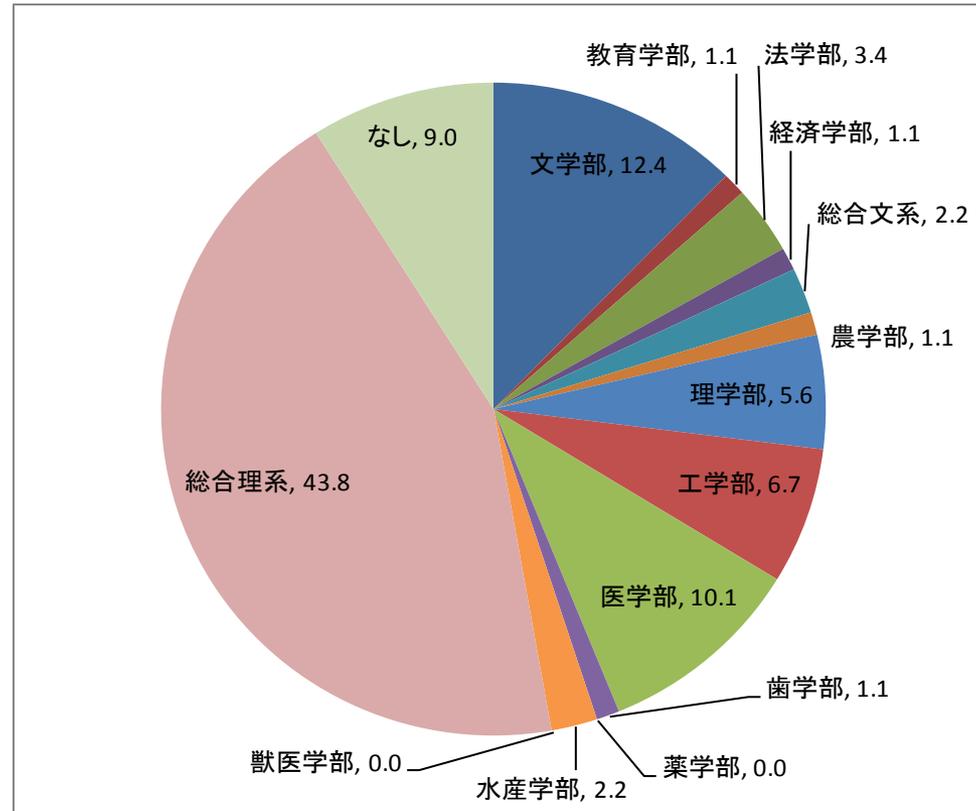


2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

所属学部

所属学部	人数	割合
文学部	11	12.4
教育学部	1	1.1
法学部	3	3.4
経済学部	1	1.1
総合文系	2	2.2
農学部	1	1.1
理学部	5	5.6
工学部	6	6.7
医学部	9	10.1
歯学部	1	1.1
薬学部	0	0.0
水産学部	2	2.2
獣医学部	0	0.0
総合理系	39	43.8
なし	8	9.0
合計	89	100.0

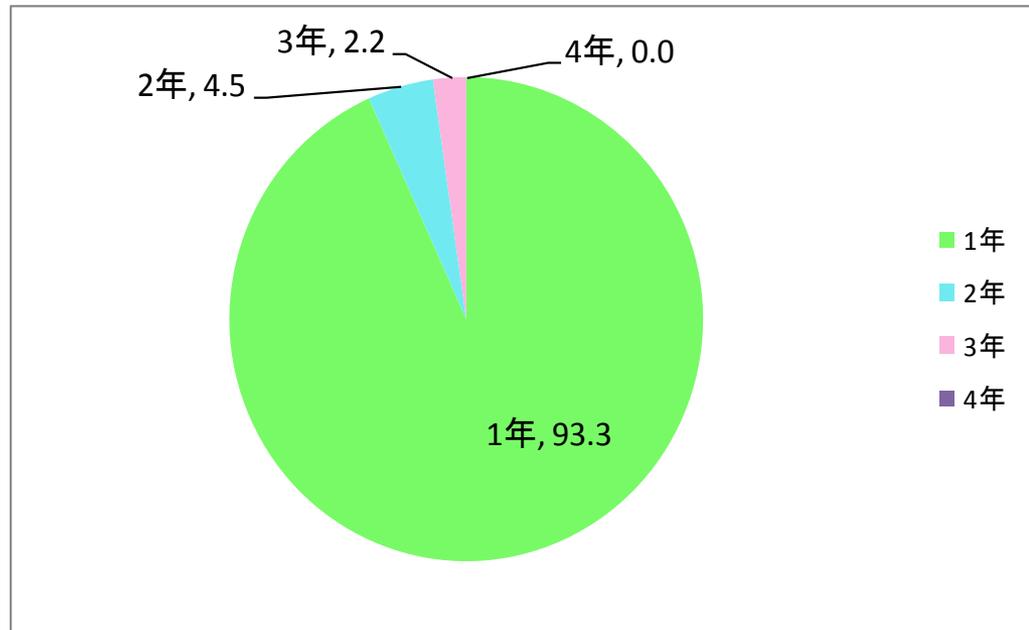


2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

学年

学年	人数	割合
1年	83	93.3
2年	4	4.5
3年	2	2.2
4年	0	0.0
合計	89	100.0



性別

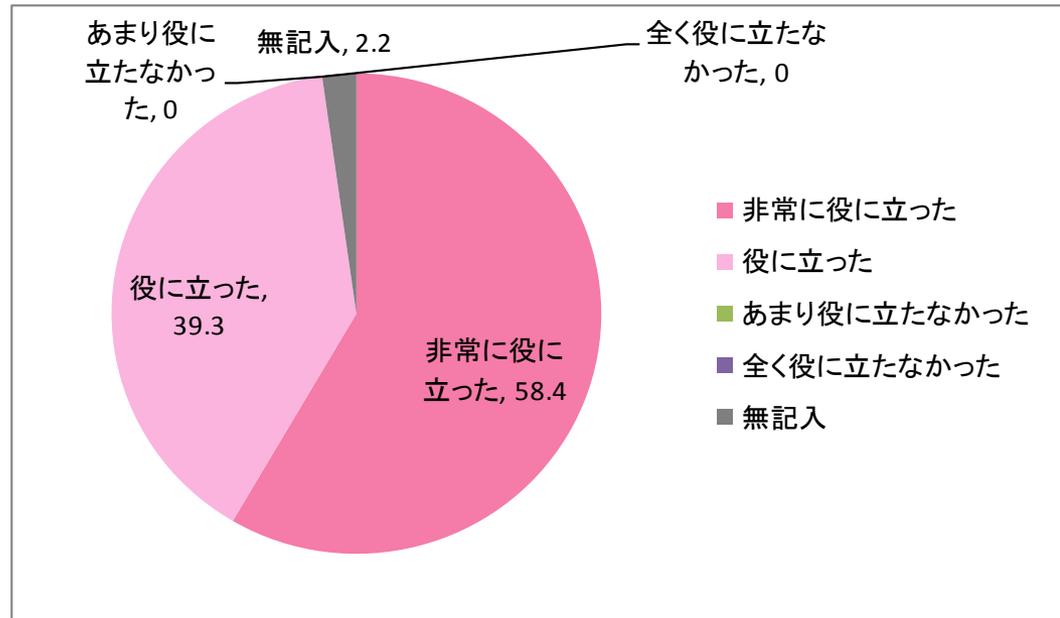
性別	人数	割合
男性	42	47.2
女性	47	52.8
合計	89	100.0

2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

満足度

満足度	非常に役に立った	役に立った	あまり役に立たなかった	全く役に立たなかった	無記入
回答数	52	35	0	0	2
割合	58.4	39.3	0	0	2.2

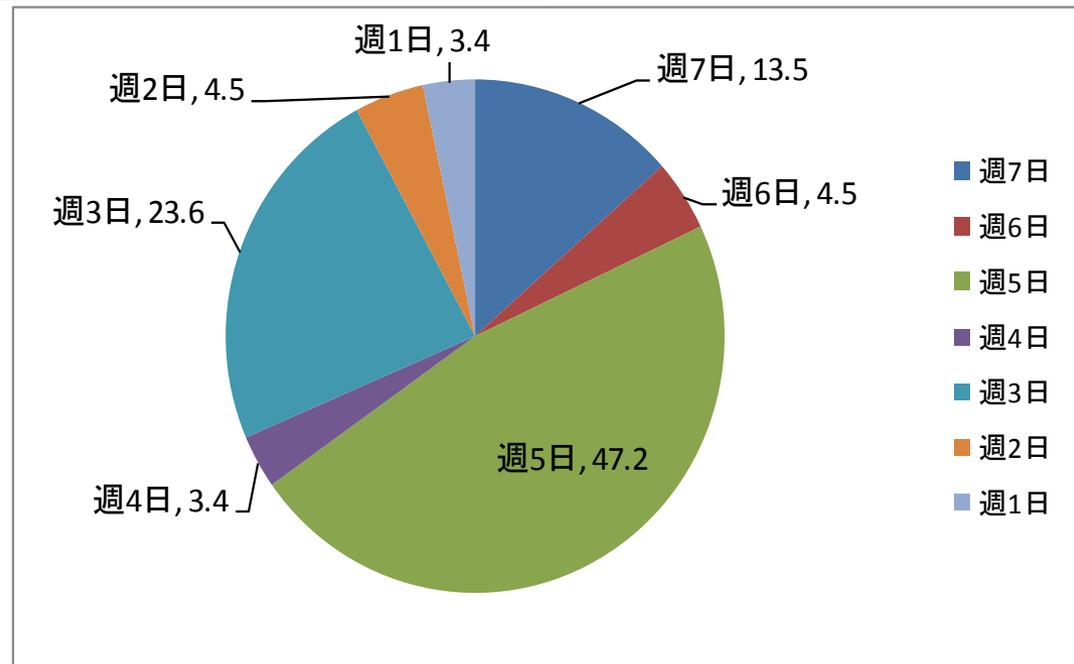


2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

希望開室頻度

開室希望頻度(日)	週7日	週6日	週5日	週4日	週3日	週2日	週1日	合計
回答数	12	4	42	3	21	4	3	89
割合	13.5	4.5	47.2	3.4	23.6	4.5	3.4	100.0

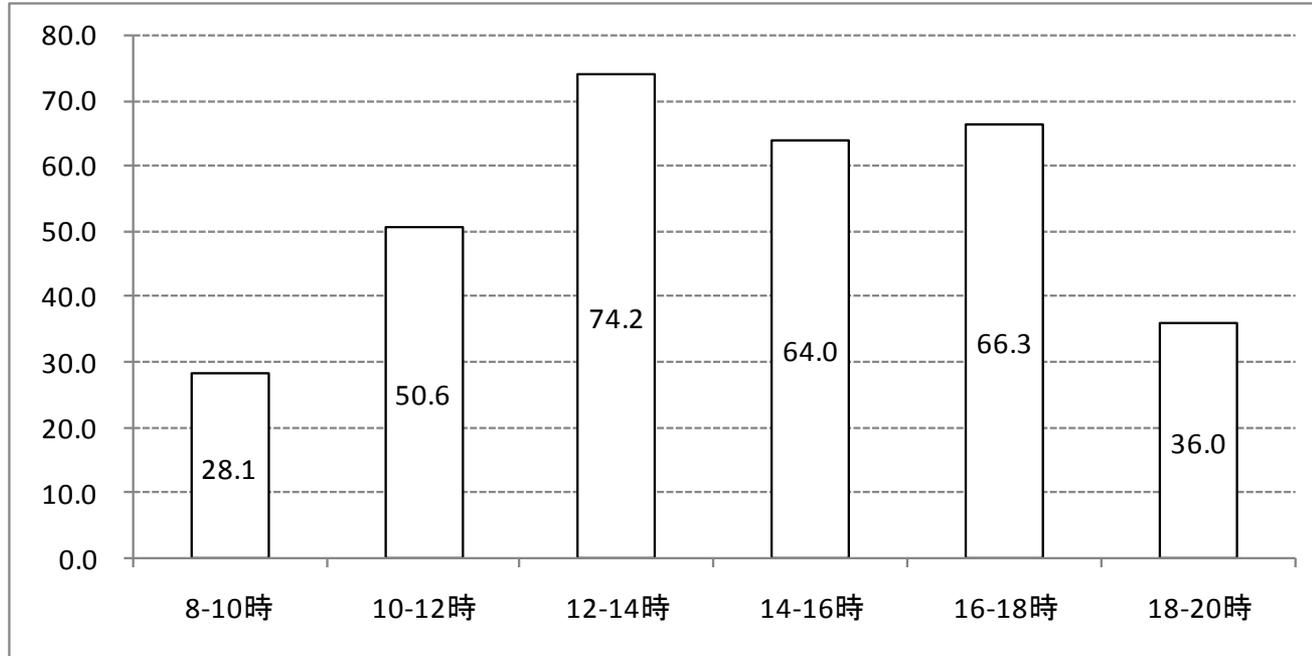


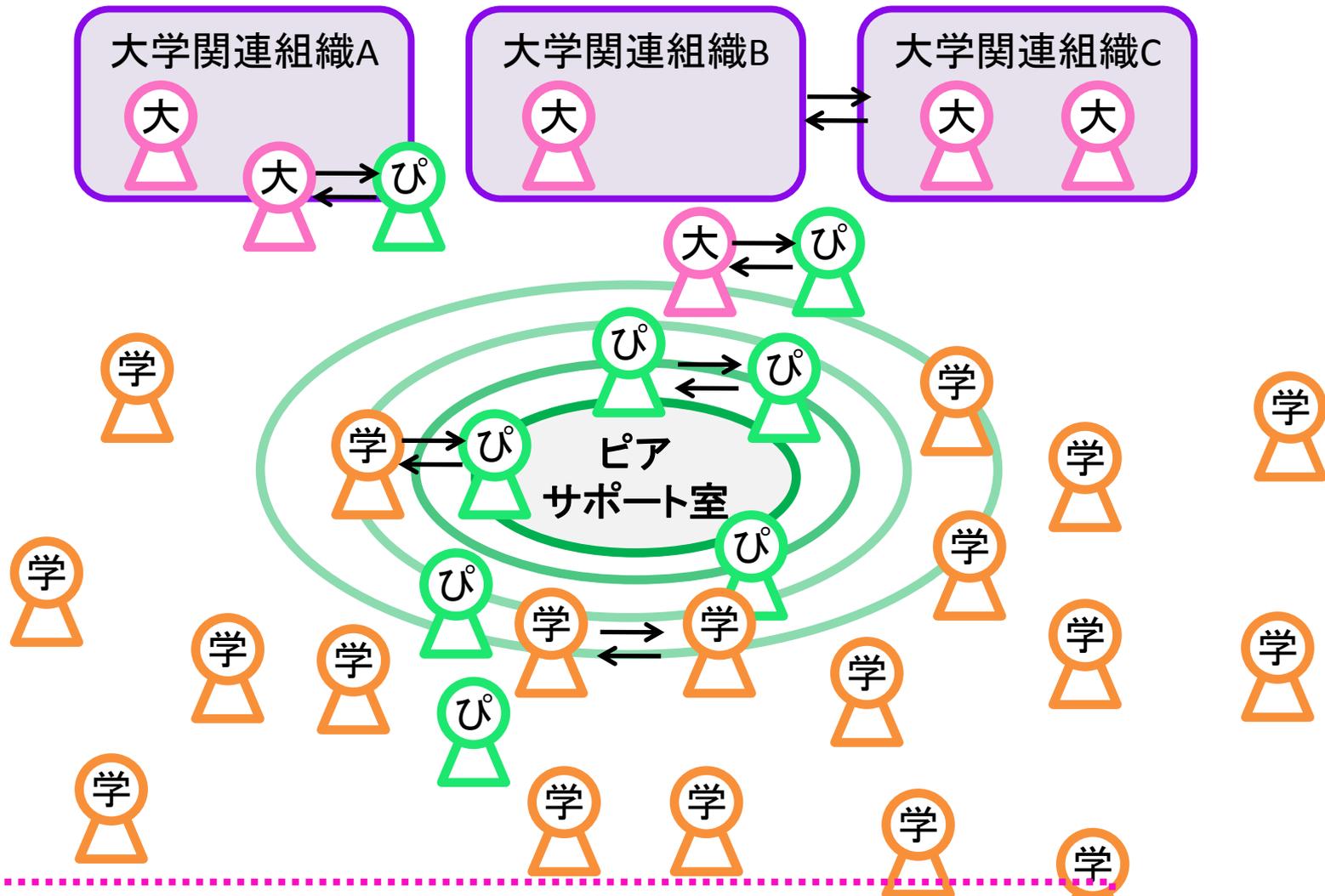
2011年4月度 質問紙調査結果

ピア・サポート室にて、
2011年4月14日から4月27日までの開室日にアンケート調査を実施

開室希望時間帯

開室希望時間帯							
	8-10時	10-12時	12-14時	14-16時	16-18時	18-20時	合計
回答数	25	45	66	57	59	32	284
割合	28.1	50.6	74.2	64.0	66.3	36.0	





様々なつながりを作り、数多くの相互作用を生み出していく

豊かな社会関係資本、人間関係の構築推進

- 生協の書籍部との協働で、
学内の他組織との関わり方を学習
- 本を通じた学生同士のコミュニケーション、
という側面に大学付属図書館が注目
- ピア・サポーターになりたいという1年生が3名志願
- 質問紙調査や利用者とのコミュニケーションからの
意見聴取で、フィードバックを得られる。

ピア・サポートの課題間の関係性

- ・効果的な**広報**のためには、**組織の位置付け**の明確化が必要。
- ・**組織の位置付け**が明確化していれば、的確な**広報**が可能に。

広報

- ・**広報**によって相談者が増えたり、相談員が増えることで、成員の**モチベーション**および**人材**の維持につながる。
- ・成員の**モチベーション**が高く、**人材**も良ければ、そのこと自体が口コミで伝わり、**広報**になっていく。

組織の位置付け

成員の維持

- ・モチベーション
- ・人材

- ・**組織の位置付け**が明確化すると、成員は「誰のために何をしているのか」という自分の位置付けを理解することになり、**モチベーション**が高まる。
- ・成員それぞれが、モチベーションを高く保ち、活動を活発に持続することにより、自身の持つ**組織の位置付け**も明確化される。

出典：岡本健(2011)「北海道大学ピア・サポートの誕生と展開 —つながり創出型ピア・サポートの提案」『北海道大学ピア・サポート活動報告書(平成22年度版)』pp.5-25.の図を加筆修正

参考資料

北海道大学学務部(2006)『学生生活実態調査報告書』, 北海道大学学務部

土屋貴之(2010)「ピア・サポートの可能性」『大学と学生』, 87, pp.29-43

土井隆義(2008)『友だち地獄 —「空気を読む」世代のサバイバル』, 筑摩書房

早坂浩志(2010)「学生に向けた活動2 —授業以外の取組み」日本学生相談学会50周年記念誌編集委員会(編)『学生相談ハンドブック』 pp.185-201

山田剛史(2010)「ピア・サポートによって拓かれる大学教育の新たな可能性」『大学と学生』, 87, pp.6-15

北海道大学ピア・サポート活動報告書編集委員会(岡本健・松田康子)『北海道大学ピア・サポート活動報告書(平成22年度版)』